

# 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

(平成 28 年 6 月 10 日 午前 10 時 55 分)

- 議長 (小林幸雄) それでは会議を再開いたします。  
通告の 7 佐藤仙治議員。

## 1 地域防災計画について

議席番号 3 番・佐藤仙治議員。

- ◆ 3 番 (佐藤仙治) はい。議席番号 3 番・佐藤仙治です。まず質問の前に、去る 4 月に発生した熊本地震により犠牲になった方々に、お悔やみを申し上げますとともに、いまだ治まる様子が見られない状況の下で、地震で被災された皆様に対してお見舞いを申し上げます。

本日私の質問は、地域防災計画についての一点であります。この件につきましては、昨日同僚議員からも防災に関する質問がありましたので、そのうちでも、防災計画のうちでも、防災マップ避難所等について、災害時業務計画並びに総合防災訓練の点を主体に質問したいと思います。

まず、町長にお伺いいたします。私は過去に発生した災害から、学べるものは全て学び、以後の災害対応に活かしていく事が、極めて重要であるという考えを持っておりますが、このことに関する町長の見解について、まずお伺いいたします。

- 議長 (小林幸雄) 横川町長。

- 町長 (横川正知) お答えをさせていただきたいと思います。災害関連に関して、過去の記憶に学ぶ事が大事だ、という事かというふうに思います。おっしゃるように、私ども末端の自治体としましても、過去の災害等々に学ぶ、その事は大事でありますし、国、県においても、そしてまた私どもの町におきましても、そういった事を踏まえて、防災計画の見直し等々も行ってきていると、こういう事でございます。以上です。

- 議長 (小林幸雄) 佐藤議員。

- ◆ 3 番 (佐藤仙治) はい。また、今度の自然災害、過去にもあったんですけど、等で犠牲になられた方々は、文字どおり、自分の命を懸けて、二度と犠牲者を出さないよう、我々にいろいろな教訓を残していったのではないかということも、私は考えています。この点についても、町長の御見解をお願いいたします。

- 議長 (小林幸雄) 横川町長。

- 町長 (横川正知) 東北地震あるいは今回の熊本地震も含めて、トータル的にどういう防災上の問題点と言いますか、課題があったかという、そのまとめが出るのだろうとい

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

うふうに思うんですね。その辺も含めて、私どももまた十分に参考にさせていただきながら、対応に供させていただきたいと思えます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。今回の熊本地震に関して、町長から職員に対して、災害対応その他も含めて、何か訓示はされましたか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 災害というのは地震だけではなくて、特に今回この梅雨入りも、6月4日でしたか、入ったわけでございます。絶えずいろいろな災害について想定をして、それぞれ自分の果たすべき役割と言いますか、その辺については、それぞれまたしっかりと把握をして、行動に、いざとなった時の行動に結び付けてほしいと、こういうことは、課長会議を通じながら職員にお願いをしているところでございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。では次に信濃町の防災マップについて、いくつかお伺いしたいと思います。まずもって、この信濃町の防災マップ 2016 年保存版ですか、完成したという事に関して、私は評価したいと思います。

さて、防災マップの中で、この1ページ目ですか、めくって1ページ目に「ご利用にあたって、この信濃町防災マップに掲載している各ハザードマップの情報は、自分の住む地域の洪水や土砂災害の危険度を知っていただくとともに、災害発生時には円滑に避難を行っていただくことを目的に作成したものです」というふうに述べられております。そこでですね、私はしかしながら、これ町民に対して、どのようにその活用するのかということが、今一つその具体的になかなか見えてこないと、もう少し、私は丁寧な説明があつて然るべきだと思うんですけど、ただこの防災マップを各班長さんなり伍長さんが配って来て、家庭に置いていったというようなことになっているんですが、その辺の考え方については、どのように町は取り組んでいくのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。対応につきましてでございますが、私から回答させていただきます。まず、この地域防災マップ、防災マップを配布させていただくに当たりましては、4月の総代会で、総代の皆様に、その趣旨と、また地域での活用をお願いしておるところでございます。また、現在、自主防災組織等が組織されている地域がございますけれども、そういう中で、この防災マップを基にしまして、地域の防災に生かしていただきたいということで、今後も働きかけてまいりたいと考えております。

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。昨日同僚議員からも説明、質問がありましたけれど、例えば避難所へ行くにはどうしたらよいのだろうと。この地図だけで十分に行けるのかどうか、この辺含めて、私、一つの提案なんですけれど、仮称なんですけれど、防災マップ指導員というようなものを例えば設置して、役場の人が全部回るといっても大変だと思うので、こういう人にちょっと研修会等を開いて、この各地区ごとに設けて、もう少し、この今の、この防災マップの活用方法とか、そういうことについて進めていくというか、指導員を通じて、各自に指導徹底していくという考えはおありでしょうか。私はこの件、これを提案したいと思います。そのことについて、町の見解を求めたいと思います。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。まず、この計画につきましては、先ほど、指導員のような形ということでございますけれども、長野県の強靱化計画というのが、28 年度から 29 年度を目標期間としまして、設定をされております。その三つの重点目標の一つに、絆で生命を守る地域防災力の充実、ということであられておまして、その中で、災害時住民支え合いマップ、地域の防災マップ等の作成を支援するという事で、県においても重点的に取り組まれることとなっております。その中の一つとしまして、住民支え合い活動推進指導員の配置というようなこともうたわれておまして、県社会福祉協議会に指導員を配置をされまして、活動例として、市町村社協、民生委員等に対してマップの作成を指導したり、また、防災指導員を配置して、そういうような地域の防災力をアップするような取り組みについて指導をしていくというような事がございます。そういう中で、指導員の、例えば地域に指導員の方がいるというよりも、地域全体で支え合うような取り組みを、側面から支援するような事を、県と協働で進めてまいりたいと考えております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） 具体的には、いつごろから取り掛かる予定なんですか。それでいつごろ完成、完成というか、実際効力を発揮できるのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。県の強靱化計画につきましては、28 年 29 年の計画となっております。私どもも、それに基づきまして、主には自主防災組織を設置をされておりますところに、そういうような取り組みのお願いをしております。ただ、これにつきましては、あくまで地域の皆さんのお考えもございますので、いついつまでに必ず、ということではなくて、粘り強くお願いをしております。ということで、完成時期というこ

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

とでは、町としては今、設定をしてございません。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。それでは避難場所等について、お伺いいたします。今度はこちらの本ですけれど、信濃町の地域防災計画、ページ、これ 1117 ページから 1119 ページですか、避難収容関係というのに書いてありまして、避難場所として六十数か所、一次避難集合場所及び 16 か所の指定緊急避難場所及び、失礼しました、指定緊急避難場所及び指定避難場所が記載されています。第一次避難集合場所には、避難する集落名が横に記載されております。この第一次避難集合場所に関して、町はどのような役割、期待、期待というか、役割を持たせようとしているのですか。お伺いいたします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。避難集合場所の想定でございますが、一旦、一次避難集合場所にお集まりいただきまして、高齢者や障害者などの避難行動支援者に、まとまって避難所へ移動していただくという目的で指定してございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤仙治議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。近年の高齢化等を考えると、災害から、要配慮者、と言うんですか、を守るためには、第一次避難集合場所の位置づけというと、安全性が、私は非常に重要になってくるのではないかなと。今の、その 16 か所の避難所ですか、指定されている。そこへ行くのにも、かなり、信濃町はすごく広範囲になって、非常に遠い、避難所まで遠い人も出てくると。今のこの高齢者とか弱者というか、そういう子供とかいろいろ考えると、私は集会所の、その集会所というか、第一次避難所、集会所等と言いますが、この、どう言うんですかね、その役割というのが非常に重要になってくるのではないかなと、私は考えているんですけど、その辺、町はどのように考えているのか、ちょっと再度お伺いいたします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。自主防災組織等が設置されている箇所につきましては、一部備蓄品等の貸与を行っておりますし、また、必要な備品等につきましても、ご相談があれば、それぞれの補助制度、助成制度などの紹介もして、充実をしていただきたいと考えておるところでございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。第一次避難集合場所について、町で今、六十数か所あるとい

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

うことで、大体私たちも含めて、すぐ、避難所というと集会所等へ逃げ込むということなんですけれど、そこが、例えば耐震性に劣るとかいうことになると、私はそのひとつの役割、期待というのが、なかなか達成できないのではないかと。そこで、町で耐震診断を行って、ここをある程度強化するというような考えはお持ちでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。集会所等につきましては、新耐震基準が設定される以前のものもございます。それぞれ災害の種類、被災箇所等によりましては違うわけですが、地震についての対応ということでございまして、耐震改修につきましては、非常に多大な経費が発生すると思っておりますので、それをなかなか、賄うというのは、難しいわけでございますけれども、今年度から避難施設につきましても、国・県の助成制度が新設されております。一棟当たり 1200 万円ということで、3分の2を国・県・町で補助する制度ということでございまして、これにつきましても、3分の1が地区の、言わば御負担という形になってまいります。こういう形の中で、なかなかその費用負担については、難しいというふうには存じておりますけれども、地区の御要望等がございましたら、御相談をお伺いさせていただく中で、できる対応をしてまいりたいと考えております。現在で、地区の集会所につきまして、全て町の負担で耐震改修をするということは、現時点では考えてございません。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。町長にお伺いします。やっぱり第一次避難集合場所というのは、私は、ひとつのその防災の拠点だと思います、地域においても、集落においても。六十数か所もあるということで、それはやっぱり信濃町のその地域性というか、広いところへ3200か400ですか、世帯があるということで、やはり私は、今度の地震などを見て、第一次避難集合場所をもっと強化する必要があるのではないかなど。これもう町の必要があると、私は考えていますが、町長のお考えはどうでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） その認識的には、佐藤議員さんと同じです。今、言われましたように、第一次避難場所でしたか、というのはあくまでも一番最初の安全の確保という意味で、そしてまた安全の確認という意味での集合場所ということでございますから、それから必要な場所に、それぞれまた状況によれば、さらに安全な場所にご移動していただくという順序になるわけですので、その辺は、まず御理解いただいた中で、全てそういったことで、拠点、集合場所としても安全は確保しているということは、一義的には大事なことだというのは思うのですが、それを今、総務課長からもお答えがあったように、国・県等々の制度が立ち上がってきたと、まあこういうことでございますので、そこで、町も負担もするということでありますので、その辺の活用をいただくのが、今の状況の

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

中では一番良い方法なのではないかなと。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。集会所の種類もいろいろあると思うんですけど、一般的に耐震診断というのは、一棟、一棟というか、一か所当たり、集会所の規模だったらどのくらい、平均してどのくらいかかるものなんでしょうか。分かっていたら答弁お願いします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。その建物の状況によっても変わってくると思うのですが、その実際の費用というものは、そういう形で、それぞれの現場に応じた形になると思いますけれども、一つの目安としますと、耐震診断におきましては、県の建築課に出されております助成制度の概要を見ますと、平米当たり 1000 円という助成制度になっておりまして、こちらにつきましても、国・県で3分の2まで補助をするという形でございます。平米当たり 1000 円という形で掛け算をしたものが、助成制度の補助対象額という形になってございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。国・県・町助成制度というのは分かりましたけれど、耐震診断というのは、私はやっぱり、町である程度、主体として、私はやっていく必要があるのではないかなと。それに応じて直す事については、各地区のその状況もあると思うんですけど、まずやっぱりこの建物が丈夫な、大丈夫なのかどうかというのを見るというのが、私は集会所というのは、準公共的な、もう施設だというふうに考えているので、公共施設に順じた耐震性というのは、必要なのではないかと思います。したがって町で、私は、その助成なりして耐震診断をする必要があると考えていますが、町長、再度、またちょっと御答弁お願いします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） いろいろな経過の中で、それぞれ地域地域の中で、集会所あるいは公会堂、コミュニティーセンター等々ができています。基本的にその地域の皆さんの拠点、活動の拠点として、当時、例えば県の単独事業としての補助をいただいたり、町からも上乗せをさせていただいたりして、建物がそれぞれ地域地域にできたわけでありましてね。それが今、耐震というような時代になってきたわけでありまして。そういう中では、今やっぱり地域の皆さん方が、まずそのことを耐震として、やるのかやらないのかということもあろうかと思っております。ですからその辺の状況も踏まえてやるということが大事だろうというふうに思いますし、それからもう一つは、やっぱりそ

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

の地域の皆さんが、耐震について、極端にそんなに診断については、いっばいかかる話ではないと思うんですよ。だからと言って公費で出すのが良いかというのが、ちょっとまたこれも、いろいろな問題も、整理しなければいけないだろうというふうに思いますので、可能な限り、地元の皆さん方の合意として、その耐震に向けての事が必要だとすれば、取り組んでいただきたいというのが、今私の思いであります。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。それでは次に、指定緊急避難場所と指定避難場所についての違いに関して伺います。確かこちらの方には、そのように書いてあったと思うんですけど、これはどう違うのか、ちょっと答弁をお願いします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） こちらの方で避難場所にしてある建物につきましては16か所ございます。緊急の避難場所ということで、一般的な避難場所と区別をさせていただきます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） 16か所指定されている避難場所における、問題点はありませんか。いくつかの事例について伺います。まず防災マップ、こちらの方ですね。最後の方になると思うんですけども、総合体育館について、こちらの地域防災計画とちょっと注意書きが相違しているのです、この点について伺いたいと思います。

防災マップ2016版中の、緊急場所の総合体育館については、地域防災計画の注意書きとして記載されている、総合体育館の周辺で土砂災害及び水害のおそれがある場合は避難所として使用しない、という記述はないが、これは大丈夫なんでしょうか。書かなくても良いのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。議員のおっしゃるとおり、地域防災計画におきましては、その旨を記載させていただいておりますが、今回の防災マップにおきましては、様々な災害を基本的には想定する中で、種類だとか被災箇所、それぞれございますので、そういう中で、災害の規模、状況によっては、災害対策本部より指示をさせていただくという旨を、避難場所等の一覧のページと、各地区のそれぞれの地区ごとのページに明記をさせていただいております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。関連して、同体育館は、平成27年11月22日でしたか、神城

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

断層地震の際に、ガラスとか窓枠破損などの被災実績がありました。震災時の避難場所として、町は問題ないと考えているのか、それとも、これが一点。

それから合わせて、残りの 15 か所の避難場所の安全性については、問題はあるところはありませんか。この質問です。お願いします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。今回の熊本地震におきましても、避難所の指定を受けた体育館等が被災して、一時的に使えないという例がございました。その他の体育館も含めまして、状況に応じて、避難所として使用できるかどうかを判断してまいりたいと考えておりますが、総合体育館におきましては、神城断層地震の被災後、災害復旧工事をしたわけでございますが、その耐震性の補強をした部分につきましては、基本的にはその災害復旧箇所という形となっておりますので、全てが今回と全く同じような状況になった場合に、サッシ等が変形してガラスが割れるような事がないとは言い切れませんので、そのような、その災害時の被災状況を見る中で、こちらの方で指定をしてまいりたいと考えています。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。総合会館も指定されていますけれど、これはもう耐震工事は終了したと考えてよろしいのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。総合体育館につきましては、昭和 56 年 6 月以降の新耐震基準で建てられたものでございますので、耐震性が確保されております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） それでは次に、災害時の業務計画、これは何かBCPと言うようなことが書いてありました、について、質問したいと思います。

2011 年 3 月の東日本大震災などを受けて当該計画を作成した自治体は、県内では長野市、軽井沢町など全部で 7 市町村のみと、つい最近の新聞で報道されていましたが、まず、この災害時の業務計画の内容について、御説明をお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。業務継続計画でございますけれども、災害時には行政自らも被災するというところで、今回も熊本地震の中でもあったわけでございますが、非常に、人的な内容、また情報、利用できる資産に、それぞれ制約が発生してまいります。

そういう中で、優先的に実施すべき業務を特定するとともに、業務の執行体制や対応手段、継続に必要な資源の確保等、あらかじめ定めておく計画となっております。この中で、必ず定めなければいけないものとしましては、町長の代行順位及び職員の参集体制、代替庁舎の特定、電気・水・食料等の確保、多様な通信手段の確保、データのバックアップ、非常時の優先業務の整理となります。また、この中で非常時の優先業務につきましては、それぞれ担当部署がございますので、その中で検討する内容となっております。非常に限られた職員数の中で、災害対応をしながら通常業務にも対応してくるということで、正直申しまして、非常に困難な状況になると思いますけれども、そういうような内容でございます。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。信濃町における当該計画の進捗状況というのは、どのようになっているのでしょうか。御答弁をお願いします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。業務継続計画につきましては、現在策定をしておりますけれども、国の方では、小規模市町村でも策定をするようにという指導をいただいております。今後、昨日も回答させていただきましたが、町の防災計画の見直しに合わせまして、災害時の業務計画につきましても、そこに盛り込むような形でできればと考えております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。今回の熊本地震を受けて、実効性の向上を目指して、ある業務が止まったら住民にどんな影響があるか、町として横断的な論議を行う事が、私は必要ではないかと考えております。これ、いつ実施するのか。私は「今でしょ」というふうに考えますが、この辺の見解はいかがでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） まさに「今でしょ」ということなのだと思うんです。ただやっぱり、いろいろな物事を進めるに当たって、いろいろな調査もやらなければいけない、そしてまた具体性で実効性のあるものにしていかなければいけないと、そういうことを考えれば、今の方向性をしっかりと、国の方でもそういった指導があるということですから、一般的に私も、ちょっと主なBCP関係については、民間企業の方が大分進んでいるらしいんですね。特に大企業あたりが、七十数パーセントの大企業が、もうそういった計画を立てていると。行政は防災の拠点でもありますので、そういった面では、必要な計画については、できるだけ早めにつけていくと。まあこういうことで、計画があつて、

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

それが実行できる計画として、作っていくことが大事だなというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。当該計画について、さっき総務課長からの御答弁がありましたけれど、地域防災計画に盛り込んで考えていくというふうに理解してよろしいのでしょうか。再度答弁をお願いします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。地域防災計画がございまして、基本的には地域防災計画と業務継続計画というものは、違う計画でございます。ただ、様々な計画が別々に、別々の冊子にあるというようなことよりも、防災関係につきましては、一つにまとめられないかという思いであります。ただ前段申し上げましたように、基本的には違う計画でございますので、それについては慎重に検討してまいりたいと考えております。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3番（佐藤仙治） はい。最後に、今年度実施予定の総合防災訓練について、お伺いします。

総合防災訓練は、今後、実効性も含め、その内容が大変重要になってくると考えられます。詳細について、今年の、今年度の詳細について、もし分かっていたら答弁をお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。今年度の総合防災訓練につきましては、実施日は9月4日を予定してございます。今回の重点地区、それぞれの地区を回りながらやっております。昨年は野尻地区で実施をしたわけですが、柏原地区を重点に実施をしてまいりたいと考えております。

内容としますと、近年非常に土砂災害が多くなってきておりますので、土砂災害を想定した訓練を考えてございます。その中でも、それぞれの土砂災害が想定される区域を、今回防災マップということで明確にさせていただいたわけですが、どのように避難をしたらよいかということも、消防署等の御指導をいただく中で、確認をしてまいりたいと考えております。

また、今までも取り組んでおりましたが、基本的には避難所に避難をしていただくということで、避難所開設も想定してということではございまして、炊き出し訓練も行っていただいておりますけれども、昨日からも御質問いただいておりますが、できるだけ実際に近いような要素も取り入れて、実施してまいりたいと考えております。

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(3 日目)

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。最後に町長にお伺いいたします。町長が指揮する、今度は確か2回目の総合訓練だと、私は理解しております。この訓練の実施に当たって、町長の思いをお聞きして、私の質問を終わりたいと思います。町民に対しても、こういう機会なので、是非熱く語っていただければありがたいです。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 防災訓練ということで、毎年実施をしております、昨年は、今総務課長からも話がありました野尻で、野尻地区を重点地区として行わせていただいたわけであります。従来のように、いわゆる火災だとか水害だとかという事よりも、むしろその土石流関係も含めてというような事で、重点を置きながら、やっておるわけでございます、どういう災害であってもまず、昨日も申し上げたのですが、やっぱりそこに住んでいる住民の皆さん一人ひとりが、まず第一になすべき行動というのは、どういう行動を取るかと、そのことが、非常に災害を未然に防止すると言いますか、被害に遭わないということにつながってくるわけでございます。そういった意味で、想定被害はともかくとして、訓練に御参加いただいて、そして自分の今置かれている生活の根拠となっている土地がどういう状況にあるかというようなことも、常々お考えいただいているのが大事な事だろうなというふうに思うんですね。そういった訓練を通じて、1年に1回で、しかもその地域ごとにやっていますから、4年に1回みたいな、何かオリンピックみたいな期間になってしまうのですが、そういう機会を通じて、最低でも多くの皆さんに御参加をいただいて、その意識を高めていただく、そんなことが大事な事になってくるのではないかなと思いますので、よろしくまたお願いしたいと思います。

●議長（小林幸雄） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤仙治） はい。以上で、私の質問を終わります。

●議長（小林幸雄） 以上で佐藤仙治議員の一般質問を終わります。  
この際申し上げますが、昼食のため午後1時まで休憩といたします。

(平成 28 年 6 月 10 日 午前 11 時 30 分)